

ナミビア

主要データ

国名〔英名〕	ナミビア共和国〔Republic of Namibia〕
面積 (km ²)	824,292
海岸線延長 (km)	1,572
人口 (百万人)	2.2
人口密度 (人/km ²)	2.7
GDP (十億 US\$)	12.32
一人当り GDP (US\$)	5,666.62
主要鉱産物：鉱石	銅、鉛、亜鉛、金、銀、マンガン、ウラン
主要鉱産物：地金	亜鉛
鉱業管轄官庁	鉱山エネルギー省 (Ministry of Mines and Energy)
鉱業関連政府機関	地質調査所 (MME Geological Survey)、国立地球科学・エネルギー情報センター (National Earth Science and Energy Information Centre)、地質経済課 (Economic Geology Subdivision)
鉱業法	鉱物資源法 (Minerals Act, 1992)
ロイヤルティ	同上
外資法	外国投資法 (Foreign Investment Act, No. 24 of 1993)
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	特になし (鉱物資源法 (第 128 条及び第 130 条) に記載有。)
鉱業公社	Epangelo Mining Ltd. (2009.12 設立)
鉱業活動中の民間企業	Rio Tinto (英・豪)、Weatherly International plc. (英)、North River Resources plc. (英)、Kombat Copper (加)、Glencore (瑞)、Paladin (豪)、CNNG (中)、CGNPG (中)、Sterlite Industries Ltd (印) 等
近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	近年、国営鉱山会社の設立や新規ライセンス付与の国営公社への限定に加え、鉱業憲章や超過利潤税の導入の検討など、鉱業政策の見直しの動きがある。
2013 年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2014 年 1 月 2 日、加 Kombat Copper 社は、2009 年から生産を休止していた Kombat 銅鉱山の生産を早期に再開すると発表した。 ・ 2014 年 1 月 18 日、Paladin Energy Ltd. (Paladin) と中国核工業集団公司 (CNNG) は、Paladin が 100% 保有する Langer Heinrich ウラン鉱山の権益 25% について CNNG 完全子会社が 1 億 9,000 万 US\$ で獲得するという内容の合意文書に調印した。 ・ 2014 年 5 月 19 日、英 Weatherly International 社は、Tschudi 銅プロジェクトについて、2013 年後半に開始した建設が計画どおり進捗しており、2015 年 Q2 には生産を開始すると発表した。 ・ 2014 年 6 月、Glencore 社は、Rosh Pinah 亜鉛プロジェクトについて、全従業員の 20% に相当する 124 名をコスト削減のため解雇した。 ・ 2014 年 7 月 4 日、英 North River Resources plc は Namib 鉛・亜鉛鉱山の 2015 年の生産再開に向けて、新株発行によって

	Greenstone Resources LP から 1,200 万 US\$ の資金調達を行うと発表した。
--	--

1. 鉱業一般概況

(1) 鉱業概況

ナミビアの主要産業は、鉱業、漁業、農業であり、中でも鉱業は輸出額の約半分を生み出す主力産業である。特にダイヤモンド分野では、世界最大手 De Beers 社と共同で政府が会社を設立し、生産、加工等の高付加価値化を推進している。また、ウラン、亜鉛、銅、螢石、金、銀等も主な生産物となっている。

Bank of Namibia の経済見通しによれば、ナミビア経済は、2013 年の実質 GDP 成長率が 3.9%、2014 年は 5.5%、2015 年は 4.9% と予想されている。鉱業分野について見れば、2013 年の実質 GDP 成長率は、ダイヤモンド分野が前年比 6.6% 増、ウラン分野が同 7.0% 減、金属鉱石分野が同 30.4% 減であった。2014 年は、ダイヤモンド分野は前年比 0.3% 減、ウラン分野が同 11.3% 減、金属鉱石分野が同 1.6% 増と予想されている。

(2) ウラン概況

近年、ナミビアの鉱業においては、ダイヤモンドだけでなくウラン生産の増大が注目されている。同国のウラン探鉱は 1950 年代後半に始まり、1960 年代後半からは大規模な探鉱が始まった。その結果、国内に多くのウラン鉱床・鉱徴地の分布が判明し、世界有数のウラン資源国である。世界原子力協会によれば、既知ウラン資源量は 26.1 万 t (世界全体の 5%)、世界第 8 位となっている。同国のウラン資源は、低品位ながら規模が大きいという特徴を有している。2013 年のウラン生産量(見込み)は 4,820t で、カザフスタン、カナダ、豪州、ニジェールに次いで世界第 5 位である。

現在生産中の鉱山は Rossing 鉱山(1976 年生産開始)及び Langer Heinrich 鉱山(2007 年生産開始)の 2 鉱山であるが、近い将来、Trekopje 鉱山や Valencia 鉱山、また今後開発が進めば Husab 鉱山も生産を開始する予定で、今後、同国のウラン生産は大幅な増加が見込まれる。

2. 鉱業政策の主な動き

近年、国営鉱山会社の設立や新規ライセンス付与の国営会社への限定に加え、鉱業憲章や超過利潤税の導入の検討など、鉱業政策の見直しの動きがある。

(1) 国営鉱山会社の設立

2008 年 7 月、ナミビア国営鉱山会社 Epangelo Mining Ltd. が 100% 政府出資(150 万 N\$) で登記され、2009 年 12 月 3 日に正式に設立された。

(2) 新規ライセンス付与を国営会社に限定

2011 年 4 月、政府は戦略的鉱物(Strategic Minerals: ウラン、金、銅、ダイヤモンド及びレアアース等を含む)の探鉱及び採掘ライセンスを国営会社のみ(想定されるのは Epangelo Mining 社 1 社)に付与するとの閣議決定を行った。既得ライセンスとの関係については、2011 年 5 月 10 日付で Katali 鉱

山エネルギー大臣は『ナミビアの鉱業における官民パートナーシップに関して』と題した声明文を発表し、上記閣議決定は、既得のライセンスには適用されないことを明確にした。同声明文の中で、Katali 大臣は、今般の閣議決定は同国の憲法に則る措置であることに言及するとともに、この閣議決定について、ナミビア鉱業会議所からの質問状への回答を紹介する形で、以下のような政府見解が公表された。

- ・ 既得の探鉱ライセンス及び開発ライセンスの延長には適用されないが、探鉱活動を長期間行っていない場合には、既存ライセンス保有者に不利な影響のないように政府との共同開発について検討を行うこと。
- ・ 現在既に行った探鉱ライセンスまたは開発ライセンスの申請、さらには既存の探鉱ライセンスから採掘ライセンスへの移行申請に関しては、従来の制度に従って、実績に基づき審査されること。ただし、増資（債務の株式化を含む）を行う場合、ナミビア政府が優先交渉権を要求する可能性があること。
- ・ 既存の採掘ライセンスに隣接する探鉱ライセンスを採掘ライセンスに移行する場合には、既存の採掘ライセンスに組み入れるが、ライセンス保有者の開発能力が十分でない場合には、新たな共同開発がオプションとなり得ること。
- ・ 既得の探鉱ライセンスに新たな鉱区及び鉱物を追加する場合には、新規の申請とみなされることから、今回の閣議決定が適用されること。

(3) 鉱業憲章の導入の動き

2009年4月、政府は、排他的探鉱ライセンス(Exclusive Prospecting License)の新規申請や更新の際には、現地株主所有権の導入や現地貧困対策への取組みを求めることを発表した。そして2010年10月、Anglo American(英)からVedanta社(英)へのSkorpion亜鉛鉱山の権益売却の承認に際して、政府競争政策委員会(NCC)が、地方投資家への株式売却の勧告等を実施した。こうした中で2010年、政府は、鉱物資産の黒人所有の拡大に向けて鉱業憲章(骨子)を発表し、パブリックコメントに付した。ただし現時点(2014年8月)では、鉱業憲章が最終的に策定されたとの情報は確認できていない。

(4) 超過利潤税等の導入の動き

2011年8月、政府は、鉱石の付加価値化を促すため、最大2%の鉱石輸出関税及び超過利潤税(windfall tax)の導入を可能にする税制改正案を承認した。鉱石輸出関税については、ナミビア鉱業会議所からの反対を受けており、現時点(2014年8月)では、最終的な決定が下されたとの情報は確認できていない。また通常の法人税及びロイヤルティに加えて課される超過利潤税の課税額に関しても、現時点(2014年8月)では、最終的な決定が下されたとの情報は確認できていない。

なお、財源強化のためダイヤモンド以外の鉱種に対する鉱業税を現在の37.5%から44%へ引き上げる計画に関しては、産業界からの懸念を受け検討をした結果、断念すると発表されている。

(5) ウラン政策

ウラン政策については、原子力エネルギー政策がまだ具体的ではないことから、2007年以降は新規のウラン探鉱ライセンス交付を猶予するモラトリアム政策を実施している。

2009年2月に原子力エネルギー・放射能保護法に基づき設立されたナミビア原子力委員会(Atomic Energy Board of Namibia)は、現行制度は放射能、放射性物質及び核物質の規制を行うことはできるが、発電施設の規制には十分ではない、としている。そして、鉱山エネルギー省による原子力発電政策や核燃サイクル政策の進展の中で、同国の原子力エネルギー政策や原子力エネルギー・放射能保護法は改訂されるべきとしている。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表 3-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2011年(千t)	2012年(千t)	2013年(千t)	対前年増減比(%)	世界シェア(%)	ランク
マンガン	41.9	188.9	133.5	-29.3	0.3%	16
ウラン	3.3	4.2	4.1	-2.5	7.0%	5

(出典: World Metal Statistics 2014)

(2) 主要金属地金生産量

データなし。

(3) 主要金属消費量

データなし。

(4) 主要金属輸出力

データなし。

(5) 主要金属輸入量

データなし。

4. 鉱山・製錬所状況

表 4-1. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業(権益: %)	鉱種	生産量(千t)	備考
Otjihase 鉱山 Matchless 鉱山	Weatherly International plc. (100)	銅	5.08 (Otjihase)	・Otjihase は 2008 年 12 月生産休止。2011 年から生産再開したものの、輸送工程のトラブル、悪天候により生産量が予想より減少。採算性に問題が生じたため、2014 年より新たに Hoffnung Fault West 地域での一次採掘を開始。
Tschudi (Tsumeb West) 鉱山	Weatherly International plc. (100)	銅	1.2	・露天掘り(SX-EW) 鉱山。2009 年から生産休止。鉱区再評価、2013 年の FS 結果公表、建設計画の進捗を経て、2015 年第 2 四半期から 17,000t/年で生産開始予定。
Kombat 鉱山	Kombat Copper (80)、 Epangero (10)、 Grove Export CC (10)	銅	1.3	生産量: 2008 年 (2013 年の生産量データなし) ・2009 年以降生産休止中。 ・2010 年 5 月、Weatherly Int'l 社から Grove 社が買収。 ・2011 年 4 月、Kombat Copper が買収。
Skorpion 鉱山	Sterlite Industries Ltd (100: Vedanta Resources plc. が 53.9%の株式保有)	亜鉛	145.0	生産量: 2013 年
Rosh Pinah 鉱山	Glencore Xstrata	鉛精鉱、	21	生産量: 2013 年

	(80.08)、 Mine Workers (19.92)	亜鉛精鉱	114	・2011年12月、GlencoreがExxaro等から買収。2012年、買収完了。
Rossing 鉱山	Rio Tinto(68.6)、 イラン政府(15)、 Industrial Development Corp. (南ア政府)(10)、 ナミビア政府(3)	ウラン (千lb)	5,312	生産量：2013年 ・2011年2月、Rio TintoとExtract社は、Rossing 鉱山に隣接するHusab 鉱山の共同開発について検討。 ・2013年12月の浸出タンク故障や処理能力の伸び悩みで2012年生産量(5,950klb)より減産
Langer Heinrich 鉱山	Paladin Energy Ltd. (100)	ウラン (千lb)	5,700	生産量：2014年見込み

表 4-2. 製錬・精錬所生産状況

製錬・精錬所名	権益所有企業(権益：%)	鉱種・形態	生産量 (千t)	備考
Tsumeb 製錬所	Dundee Precious Metals Inc. (加) (100)	粗銅	152.4	生産量：2013年。24万tの年間生産能力あり。
Skorpion 製錬所	Vedanta 社(100) (2010年10月以前は、 Anglo American が所有)	亜鉛	145.0	生産量：2013年 2010年10月、Anglo American から Vedanta 社が買収。

(出典：各社 Annual Report)

① Tschudi 銅プロジェクト

Tschudi 銅プロジェクトは、ナミビア北西部のTsumebから北13kmに位置し、1970年代にNewmont社が発見したプロジェクト。2014年5月19日、英Weatherly International社は、2013年後半に開始した建設が計画どおり進捗しており、2015年Q2には生産を開始すると発表した。同社によると、電気銅の年間生産量は1.7万tでSX-EW法による電気銅生産は同国初となる。同プロジェクトは露天掘り鉱山で、税引き後NPVは1.33億US\$、キャッシュコストは4,226US\$/tである。

② Kombat 銅プロジェクト

2014年1月2日、加Kombat Copper社は、2009年から生産を休止していたKombat銅鉱山の生産を早期に再開すると発表した。2014年の早い段階で、資源量及びコスト試算、スケジュールを含む技術レポートを完了させる。同社は、2013年11月に投資会社であるForbes & Manhattan社及びJilin Jien Global Resources Fund社から資金提供を受けており、これにより再開が可能となったとしている。

同社は、Kombat銅プロジェクトに加え、Otavi Mountainlands地域に4件の採掘権及び排他的探鉱権(Exclusive Prospecting License)の80%権益を保有している。これら5つのプロジェクトは、Tsumeb銅鉱山及びTsumeb銅製錬所の近くに位置しているため、既存のインフラを使用することが可能である。

③ Rosh Pinah 亜鉛プロジェクト

Rosh Pinah 亜鉛鉱山は、ナミビアの首都Windhoekから南西800kmに位置し、1969年より操業を行っている坑内掘り鉱山であり、ナミビアで2番目に大きい亜鉛鉱山である。亜鉛精鉱の生産量は95千t/年、残存マインライフは8年と見込まれている。

2011年5月、Glencore International plc.(本社：スイス)は、Rosh Pinah 亜鉛鉱山を運営するRosh Pinah Zinc Corporation社の権益50.04%をExxaro Base Metals and Industrial Holdings(本社：南ア)から取得したと発表した。また、PE Minerals社(本社：ナミビア)とJaguar Investment Four社(本社：英)が保有していた株式30.04%も取得し、2012年5月にはこれら80.08%の権益取

得について政府競争力委員会から承認を受けたと発表した。残りの 19.92%は同鉱山の従業員が保有している。

2012年7月、Rosh Pinah Zinc Corporation社は「Glencore International plc.の指示を受け、今後2~3年をかけて、Rosh Pinah 亜鉛鉱山の鉱石生産量を68万t/年から100万t/年に拡大する計画を準備中である」と発表した。

2014年6月、Glencore社は、全従業員の20%に相当する124名をコスト削減のため解雇した。同社は、解雇した従業員については同国鉱業協会を通じて他の鉱山での就職活動を支援するとした。

④ Langer Heinrich ウランプロジェクト

Langer Heinrich ウラン鉱山は、2007年から操業を開始し、現在のウラン生産能力は520万lb/年で、2014年には570万lbの生産が見込まれている。2014年1月18日、Paladin Energy Ltd. (本社：豪Perth、以下Paladin)と中国核工業集团公司(CNNC)は、Paladinが100%保有する同鉱山の権益25%について、CNNCの完全子会社であるChina Uranium Corporation Limitedが1億9,000万US\$で獲得するという内容の合意文書に調印した。CNNCはLanger Heinrich 鉱山生産量における権益分のウランを獲得できるほか、今回の合意にはCNNCがPaladinから市場価格でウランを購入できるオフテイク権も含まれる。中国側の規制機関の承認が得られれば、2014年中頃までには権益25%の売却が完了する予定である。

⑤ Namib 鉛・亜鉛プロジェクト

2014年7月4日、英North River Resources plcはNamib 鉛・亜鉛鉱山の2015年の生産再開に向けて、新株発行によってGreenstone Resources LPから1,200万US\$の資金調達を行うと発表した。両社は拘束力のある投資契約書に署名したとされ、North River ResourcesはNamib 鉱山の再開に向けた建設計画の立案を直ちに開始する予定である。

5. 探鉱状況

① Omitiomire 銅プロジェクト

Omitiomire 銅プロジェクトは、首都Windhoekから北東に120kmに位置する。2011年時点で、豪州IBML社が試掘等の探鉱活動を再開・継続中で、2014年の年次報告によると、同資源量は1億3,700万t、品位は0.54% Cuで、金属銅量にして74万1,000tである。鉱山計画によると、同鉱山は露天掘りで、SX-EW製銅法を採用、地下水量に限りがあるため月の生産量は最大4万tの予定。2014年には同国鉱山エネルギー省より探鉱権の交付準備文書を受領した。なお、同社は、Kalahari Copperbelt プロジェクトについても開発移行を検討中である。

② Rehoboth 銅銀探鉱プロジェクト

2012年4月、江西省発展改革委員会は、江西省地質鉱産勘査開発局によるナミビアHardap地域のRehoboth 銅銀探鉱プロジェクトへの投資を承認した。江西省発展改革委員会によれば、この探査は江西省地質鉱産勘査開発局贛中地質大隊が500万US\$を投資するもの。江西省地質鉱産勘査開発局贛中地質大隊は、同地区で既に169km²にわたり100%探鉱権を得ている。地質資料等による当初見積りでは銅資源量として50万t、銀1千t以上が見込まれている。さらに調査の結果3つの鉱体が発見され、金属銅資源量が39,500t(品位1.37% Cu)、金属亜鉛資源量が45,000t(平均品位1.57%)のほか、鉄鉱石、金、銀の資源が確認され、2012年8月より現地調査が行われている。

③ Berg Aukas 鉛亜鉛旧鉱山再開発プロジェクト

2011年1月、Weatherly International社(本社：London、AIM上場)は、中国のEast China Mineral

Exploration and Development Bureau(有色金属華東地質調査局)と共同で、同国北部の Berg Aukas 鉛亜鉛旧鉱山の再開発で合意し、両社は新会社 China Africa Resources を設立した。2013 年 4 月の地質調査の結果、カットオフ品位 3%で平均品位 15.47 (Zn%) の亜鉛資源量が 126.4 万 t と推定され、総推定資源量にするとカットオフ品位 5% (ZnEq%) で、平均品位 11.16%の亜鉛が 169 万 1,000t との結果が出ている。採掘権は 2019 年 3 月末日まで有効。

④ Lofdal レアアースプロジェクト

Lofdal レアアースプロジェクト(ナミビア北西部)では、Namibia Rare Earths 社(Endeavor Mining Corp. 41%)が 2011 年 4 月から 50km²のエリアで 14,400m の試掘により埋蔵量評価を実施した結果、エリア 4 が有望と判断。更にその後、同エリアで 10,025m の試掘を行った結果、リン酸イットリウム鉱(xenotime)が主要鉱物であることが判明した。希土類酸化物(REE)の概測資源量は 9,230t と推定され、そのうち重希土類酸化物(HREE)が 7,050t である。REE の予測資源量は 8,970t であり、そのうち HREE が 6,700t と予測される。2014 年 10 月 1 日付プレスリリースによると、深度 200m を予定している露天掘り鉱山は 2017 年に生産開始予定で、年平均 1,500t の REE の生産を見込んでいる。鉱山寿命は 7.25 年である。

⑥ Husab ウランプロジェクト

Husab ウランプロジェクトは、Rossing ウラン鉱山の南方 5km に位置し、Extract Resources 社(本社: WA 州 Perth、以下「同社」)が探鉱・開発中のプロジェクトである。プロジェクト管理を行う Swakop Uranium によると、世界第 2 位の規模を誇るウラン鉱山である。

同社が 2011 年 8 月に発表した詳細 FS 結果によれば、鉱区 Zone1~5 のうち Zone1~2 の埋蔵量は 2 億 8,000 万 t(品位 518ppm、ウラン含有量は 3 億 1,990 万 lb)、開発総額は 16.6 億 US\$、年間 1,500 万 t 鉱石生産、年間 U₃O₈ 生産は 1,500 万 lb(約 6,800t)、マインライフ 20 年超、生産コストは 28.5US\$/lb となり、生産が開始されれば世界 3 大ウラン鉱山のひとつとなる予定である。また同社は並行的に、1,500 万 US\$ を投じて Zone3~5 の追加 FS を行う予定であり、これによりマインライフは最大 30 年に延長できるとされている。

2011 年 12 月、同社の筆頭株主である Kalahari Minerals 社は、中国広東核電集団(CGNPC:China Guangdong Nuclear Power Holding Corp.)が提示した買収オファー(2.4355 億/株、(総額約 9.93 億 US\$))を支持すると発表した。翌年 2 月 3 日、CGNPC の子会社である TAURUS が、同社の 42.7%の株式を保有する Kalahari Minerals 社(ロンドン証券市場上場)の 89.5%の株式を取得したことを公表した。

2012 年 11 月、CGNPC は「Husab 鉱山周辺の建設を 2012 年末までに始め、3 年後(2015 年末)には建設を完了させる予定である。」とコメントした。併せて、同プロジェクトが既にナミビア政府から採掘権を取得していることにも言及していたが、2013 年 4 月には建設工事が着工し、2014 年 3 月から採掘を開始。操業開始後 18 ヶ月で最大生産能力に達すると報告されている。

2013 年 11 月の報道で Husab プロジェクトの位置する沿岸のウラン鉱山で水不足が懸念されたが、2014 年 10 月には、仏原子力企業 Areva 社が Trekkopje ウラン鉱山に使用する予定で計画し、現在建設中断中の水処理プラント(処理能力 2,000 万 m³)について、ナミビア農水省への売却交渉を行っていると報じられている。Husab プロジェクトへの給水は、NamWater とのオフテイク契約で 2013 年 2 月より開始され、全長 27km の臨時パイプラインを介して提供されている。

⑦ Omahola ウランプロジェクト

2011 年 11 月、Deep Yellow 社は、Ongola Alaskite 鉱床の鉱量について 3 倍の 2,050 万 t、品位 400ppm となったことから、Omahola ウランプロジェクト全体では 3,860 万 t、平均品位 338ppm と発表した。

2014年報告書によると、同プロジェクトの資源量は4,870万t、平均品位420ppmとされ、露天掘り堆積浸出を採用する。なお同プロジェクトを含む同社保有の専属試掘権は2年間の延長が決定している。

⑧ Etango ウランプロジェクト

2012年4月、Bannerman Resources社(本社：パース)は、Etango ウランプロジェクトに係る詳細なFSの結果、精測及び概測鉱物資源量の80%は、ウラン酸化物119.3百万lbを含む確定及び推定鉱石埋蔵量に転換され、露天採掘の最低マインライフは16年で当初5年はウラン酸化物年産6~8百万lb、その後は年産7~9百万lbの生産が見込まれるとした。なお、同社は、国営鉱山会社Epangelo社と、当初Epangeloがプロジェクトの権益5%を所有し、鉱山開発決定後、さらに5%を取得するオプションを保有する契約を結んでいる。2014年10月現在、堆積浸出のデモンストレーションプラントの建設が着工し、2015年初旬には完成予定。デモンストレーション実施後、初の結果報告は2016年6月に予定されている。

⑨ Otavi Mountainlands 地域

Otavi Mountainlands 地域は、ナミビアの高品位銅鉱床。加Kombat Copper社は、同地域の4件の採掘権及び排他的探鉱権(Exclusive Prospecting License)の80%権益を保有している。同社は、2013年11月に投資会社であるForbes & Manhattan社及びJilin Jien Global Resources Fund社から資金提供を受けており、これにより探鉱開発が可能となったとしている。これらのプロジェクトは、Tsumeb銅鉱山及びTsumeb銅製錬所の近くに位置しているため、既存のインフラを使用することが可能である。

⑨ THL Zinc Namibian Holdingsによる技術・資金協力

2012年2月、国営鉱山会社Epangelo社は、Katali 鉱山エネルギー大臣立ち会いの下、THL Zinc Namibian Holdings(Vedanta Resources(本社：ロンドン)の現地法人)と、ベースメタル、石炭等の探査において技術面、資金面での協力に係るMOUに署名した。Epangeloが民間企業と締結したMOUとしては、Namibian Rare Earth Inc.及びSwakop Uraniumに次いで3例目である。



図1. 主要鉱山、製錬所、精錬所位置図(出典：ナミビア地質調査所資料を基に作成)

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

表6-1. 日本への精鉱・地金輸出货量

鉱種	2011年(千t)	2012年(千t)	2013年(千t)	対前年増減比(%)
亜鉛地金	5	—	—	—
銅地金	1	—	—	—

(出典：財務省貿易統計)

(2) 日本企業による投資状況等

2010年7月、JOGMECは、同国鉱山エネルギー省(The Ministry of Mines and Energy of the Republic of Namibia)と鉱物資源の探査・開発など資源分野で関係強化を図る包括的な内容の覚書(MOU)に署名した。

7. その他トピックス

特になし

(2014. 8. 31 ロンドン事務所 森田健太郎)